

総合文化研究科

I	教育水準	教育 19-2
II	質の向上度	教育 19-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該研究科の教育目的と特徴を支えるべく専門が広大な学問領域にわたる教員 377 名を 5 つの専攻に配している。各専攻・系・センターからなる組織編成は、文理横断的・学際的教育環境を実現するのにふさわしいものである。専門性、性別、国籍、実社会での活動歴等の点で多様な教員を雇用している。また非常勤講師、特定有機雇用教職員を有効に活用している。授業担当に支障を生じさせないための人事小委員会の設置が図られているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学外有識者を含む運営諮問会議を年 4 回開催し、教育や研究に関する意見を集め、緊急性高いものから順次改善する努力がなされている。例えば、「国際化」に関する意見に基づき、大学院生の海外派遣プログラムを発足させ、「社会連携」に関する意見に基づき、学外団体からの社会人の受入れや大学院生のインターンシップを充実させている。また、一部の専攻では毎年授業評価を実施しており、コア・カリキュラムの改善を実施しており、教務委員会を中心にファカルティ・ディベロップメント（FD）を進めさらなる改善に努めているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、総合文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、総合文化研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学際性・文理融合の教育目的を達成するために、個々の教員の特定の専門分野を活かした多様で体系的なカリキュラムが組まれている。学生が各自の専門領域に隣接する科目や他の領域の科目を履修できるように配慮されている。また、社会の要請に応じた教育のために、学外の企業や研究所等から客員教員を積極的に招

聘しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、平成 16 年度には、国際研究先端大講座が運営主体となる「人間の安全保障プログラム (HSP)」を発足させ、平和構築・国際協力を中軸としたカリキュラムを組み、海外を含む学外団体から多数の社会人学生を受け入れるとともに、これらの団体へのインターンシップを充実している。この他、過去 4 年間において、「欧州研究プログラム (ESP)」、「日独共同大学院プログラム (IGK)」、「科学技術インタープリター要請プログラム」を発足させている。「魅力ある大学院教育」イニシアティブや 4 件の 21 世紀 COE プログラム、グローバル COE プログラムが教育に大きく貢献しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、総合文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、総合文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数を対象とした授業がそれぞれの学問分野に応じてバランスよく組み合わせられている。大学院修士・博士の両課程の大学院生の研究指導体制も充実している。研究指導の一環として大学院生をティーチング・アシスタント (TA)・リサーチ・アシスタント (RA) として雇用し、研究者や教育者としてのキャリアを積ませている。専攻・系によっては、学生に研究成果の紀要・論文集への掲載や研究発表の機会を提供しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、専攻・系の必要性に応じて教員・学生が一体となった研究会を組織し、きめ細かい研究指導を行っている。施設設備面では、PFI (Private Finance Initiative) 事業による駒場コミュニケーションプラザの開設による、キャンパス東部の教育環境が一新された。平成 20 年 3 月に実施された広域科学専攻修了生を対象としたアンケートでも環境・設備についての満足度は高くなっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、総合文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生は順調に学位を取得し、平成19年度は修士号239名、博士号73名が授与されている。大学院学生は毎年一名当たり学会発表2件弱、論文1件弱の業績を上げているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成20年3月に実施された広域科学専攻修了生を対象としたアンケートによると、「これまで受けた講義は研究の役に立っているか」の設問に対しては60%以上の学生が肯定的な回答をしている。その他の設問に対しても、高い評価の回答が出されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、総合文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程・大学院博士課程共に教育研究職・技術職志向が強い。大学院修士課程修了生の約半数は大学院博士課程に進学し、大学院博士課程の修了生は大学教員・非常勤講師・公的研究機関・博士研究員で半数強を占めるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成19年度に実施した「教養学部・総合文化研究科卒業生雇用主インタビュー」の結果から、当該研究科修了生への評価は非常に高く、当該学部が重視している「国際的能力」や「学際的関心の広さ」への肯定的な評価が認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、総合文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。